調査用紙①

深頸部膿瘍後嚥下障害の全国調査

（症例数調査）

調査対象期間：2011年4月1日～2021年3月3１日

■施設情報

　貴施設名　　　　　　：

　貴診療科　　　　　　：

ご回答医師名　　　　：

ご回答医師のメールアドレス：

■調査内容

　全対象症例

　１）深頸部膿瘍のステージ別の症例数及び原因（別紙　表１の分類をご使用ください）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 咽喉頭炎 | 歯性 | 唾液腺炎 | その他 | 原因不明 | 合計 |
| Group A | 例 | 例 | 例 | 例 | 例 | 例 |
| Group B | 例 | 例 | 例 | 例 | 例 | 例 |
| Group C | 例 | 例 | 例 | 例 | 例 | 例 |

　２）１）深頸部膿瘍症例のうち嚥下障害を来したステージ別の症例数

　　Group A：　　　　　例　　Group B：　　　　　例　　Group C：　　　　　例

　３）２）の嚥下障害症例のうちリハビリ実施・嚥下改善手術実施・両方実施症例数

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | リハビリ | 嚥下改善手術 | 両方 |
| Group A | 例 | 例 | 例 |
| Group B | 例 | 例 | 例 |
| Group C | 例 | 例 | 例 |

調査用紙②－1

深頸部膿瘍後嚥下障害の全国調査

（症例ごとの詳細情報）

調査対象期間：2011年4月1日～2021年3月3１日

1例につき１部ご記入ください（不足分はお手数ですがコピーしてご記入ください）

　■施設情報

　貴施設名　　　　　　：

　貴診療科　　　　　　：

ご回答医師名　　　　：

ご回答医師のメールアドレス：

　■調査対象者基本情報（

被験者コード（別紙対応表参照）　　　　　　　　番

①全対象症例

1）　性別・年齢　　　：　男性　・　女性　　　　　歳

2）　入院期間　：　　　　　　　　日間

3）　転帰　：　自宅退院　・　転院　・　その他（詳細：　　　　　　　　　　）

4）　Ⅰ気管切開の有無　：　有　・　無

Ⅱ気管切開有の場合、退院時の状態　：　閉鎖　・　閉鎖なし

５）　原因 ：□　咽喉頭炎　　□　歯性　　□　唾液腺炎　　□　原因不明

□その他（詳細：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

６）　深頸部膿瘍のステージ（別紙　表１の分類をご使用ください）：

Group A　・　Group B　・　Group C

　　７）　EAT-10（未実施の場合は空欄にしてください）　合計点　：　　　／４０点

実施日（入院日を0日とします）：　　　　　日目

　　　　　Functional Oral Intake Scale （以下FOIS）：

レベル　１・２・３・４・５・６・７・８

　　８）　嚥下内視鏡スコア（以下VE）の兵頭スコアの合計点（別紙　表２をご参考にしてください）：　　　　　　／１２点

９）　嚥下造影検査（VF）のPenetration Aspiration Scale（以下PAS）（別紙　表３のご参考にしてください）：１・２・３・４・５・６・７・８　点

調査用紙②－２

②嚥下障害症例：VEにおける兵頭スコア4点以上

②－1　　リハビリテーション実施症例

1）　リハビリテーション介入時期（入院日を0日目とします）：

間接訓練　　　　　　日目　　直接訓練　　　　　　日目

　　２）　リハビリテーション介入前後の兵頭スコア・PAS：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 兵頭スコア | PAS | FOIS |
| リハビリテーション介入前 | 点 | 点 | 点 |
| リハビリテーション介入後 | 点 | 点 | 点 |

　　②－2　　嚥下改善術実施症例

　　1）　手術施行時期（入院日を0日目とします）：　　　　　　日目

　　２）　術式：□　喉頭挙上術(LE)　□　輪状咽頭筋切断術(CPM)

□　その他（詳細：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

　　3）　手術加療前後の兵頭スコア・PAS：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 兵頭スコア | PAS | FOIS |
| 手術加療前 | 点 | 点 | 点 |
| 手術加療後 | 点 | 点 | 点 |

　　②－3　　嚥下障害全症例

　　１）　嚥下機能改善＊時期（入院日を0日目とします）：　　　　　　日目

２）　嚥下機能改善時＊のVEの兵頭スコア（施行していれば）：　　　　　／12点

　　３）　嚥下機能改善時＊のVFの PAS（施行していれば）：

１・２・３・４・５・６・７・８　点

＊FOISにてLevel4以上

別紙

表1　 Deep neck infection (DNI)の分類

|  |  |
| --- | --- |
| Group A | DNI without extension below the hyoid bone |
| Group B | DNI with extension beyond the hyoid bone, but without extension to the mediastinum |
| Group C | cases complicated with DNM |

Hidaka H, Ozawa D, Kuriyama S, et al. Risk factors for delayed oral dietary intake in patients with deep neck infections including descending necrotizing mediastinitis. Eur Arch Otolaryngol. 2017;274:3951-3958.

表２　兵頭スコア

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ０点 | １点 | ２点 | ３点 |
| 喉頭蓋谷や梨状陥凹の唾液貯留 | 唾液貯留がない | 軽度唾液貯留あり | 中等度の唾液貯留があるが，喉頭腔への流入 はない | 唾液貯留が高度で，吸気時に喉頭腔へ流入する |
| 声門閉鎖反射や咳反射の惹起性 | 喉頭蓋や披裂部に少し触れるだけで容易に反射が惹起される | 反射は惹起されるが弱い | 反射が惹起されないことがある | 反射の惹起が極めて不良 |
| 嚥下反射の惹起性 | 着色水の咽頭流入がわずかに観察できるのみ | 着色水が喉頭蓋谷に達するのが観察できる | 着色水が梨状陥凹に達するのが観察できる | 着色水が梨状陥凹に達してもしばらくは嚥下反射が起きない |
| 着色水嚥下による咽頭クリアランス | 嚥下後に着色水残留なし | 着色水残留が軽度あるが，２～３回の空嚥下 で wash out される | 着色水残留があり，複数回嚥下を行っても wash out されない | 着色水残留が高度で，喉頭腔に流入する |

兵頭政光，西窪加緒里，弘瀬かほり：嚥下内視鏡検 査におけるスコア評価基準（試案）の作成とその臨 床的意義．

日本耳鼻咽喉科学会．2010；113： 670- 678

表３　Penetration Aspiration Scale（PAS）

|  |  |
| --- | --- |
| １点 | 喉頭侵入なし |
| ２点 | 喉頭侵入するが声門に達することなく喀出可能 |
| ３点 | 喉頭侵入するが声門に達せずに喀出不可 |
| ４点 | 声門に達する喉頭侵入を認めるが喀出可能 |
| ５点 | 声門に達する喉頭侵入があり、喀出不可 |
| ６点 | 声門下まで食塊が入るが喀出可能 |
| ７点 | 声門下まで食塊が入り、咳嗽するも気道から喀出不可 |
| ８点 | 声門下まで食塊が入り、喀出しようとする行動が見られない |

Rosenbek JC, Robbins JA, Roecker EB, et al. A penetration-aspiration Scale. Dysphagia 1996; 11:93-8.